

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和 8 年 9 月)

～中東情勢によるコスト上昇に天候要因も加わり、現状判断は悪化～

- 景気ウォッチャー調査・9 月調査の近畿地域の結果は、現状判断が 44.1 と前月比で 3 か月ぶりの低下（－1.9 ポイント）となった。好不調の判断の目安となる 50 も 21 か月連続で下回っている。また、先行き判断も 44.9 と 5 か月ぶりの低下（－1.3 ポイント）となった。
- 足元の景気については、世界的な AI 需要の拡大による輸出の増加や、株価の上昇による富裕層の消費増など、一定のプラス材料はみられるものの、中東情勢の変化に伴う、原油や関連製品等のコスト上昇が大きな重しとなっている。
- また、今月は例年よりもかなり雨が多かった影響で、小売関連を中心に客足の減少につながるなど、消費全体の下押しにつながっている。さらに、インバウンド消費も堅調さが伝えられつつも、百貨店や飲食関連の一部からは、減速の動きも指摘されている。
- そうした中、かねてからの物価の上昇傾向が、消費全体のマイナス要素となっている。消費者による節約志向も月を追うごとに強まっている状況であり、スーパーや家電などを中心に、幅広い業界で購入量の減少などが指摘されている。
- 景気の先行きについては、クリスマスや年末商戦に向けた期待の声が聞かれるほか、中東情勢の影響緩和によるプラス効果への言及も少なくない。一方、インバウンド消費はこれまで景気の下支え要素とされてきたが、中国の渡航自粛が続く中、今後は円安効果のはく落懸念もあり、悪化に向かうとの声も聞かれる。
- 加えて、足元では金利の上昇に対する懸念の声が増えている。住宅需要への悪影響はもちろん、消費全般に幅広い影響が出るとの見方は少なくなく、百貨店やスーパーなど、小売関連からも不安の声が上がっている。
- さらに、かねてからの中東情勢の影響が、物価の上昇に拍車をかける懸念が大きい。すでに消費者の間では、不要不急の消費を抑えるといった節約志向が強まっている中、さらに物価が上昇すれば、消費全体の鈍化につながりかねない。企業の間ではさらなる価格転嫁は困難とする声も多く、収益への悪影響を含め、先行きへの大きなリスクファクターとなっている。

「雨・天候」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店（販促担当）	・全国的に天候が悪いなか、それほど極端には崩れておらず、都心への人出は多くの場面で落ちていない。気温も前年と比べて極端に暑くなく、月後半には朝晩が秋めいた気温となったため、秋物商材の動きが良い。食料品に関しても、総菜を中心に秋の季節メニューが好調となっている。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・9 月前半は秋雨前線の停滞などで天候が悪く、集客に苦しんだが、後半の大型連休は比較的天候に恵まれ、売上はばん回できている。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・近隣の姉妹店が 1 月に閉店したことで客の流入が続き、27 日までの売上は前年比で 13.8% 増、来客数は 5.0% 増と好調を維持している。ただし、天候不順の影響もあり、関西全店では店頭売上が 4.1% 減と苦戦していることから、当店の状況は特殊ともいえる。

家計動向関連	変わらない	百貨店（商品担当）	・インバウンドの動きが好調となっている。前年は大阪・関西万博の終盤であり、店頭 の通常商品の売上増加がみられなかったため、今年はその分だけ好調な数値となってい る。一方、9月の大型連休は5連休となったが、行楽需要は盛り上がり、食品の売上 も前年並みであった。ただし、ファッション部門は婦人服を中心に好調が続き、今後の 天候次第では上振れの可能性も出てきている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・台風や雨の日が多く、来客数が足踏み状態となっている。
		一般レストラン（企画）	・天候不順もあり、売上、来客数共に前月と比べてやや減少しているが、3か月前から はほぼ横ばいで、前年の水準は上回っている。客単価も上昇しているなど、営業は堅調 な状況が続いている。
		観光型ホテル（経営者）	・前年の9月は、大阪・関西万博で団体客が多かったが、今年は団体客の減少を個人客 の増加でカバーできている。特に、大型連休中は、個人客で満室に近い状況が連日続い た。当地域では台風や大雨がなかったことも、大きなプラス要因となっている。
		旅行代理店（役員）	・今年は夏休みの旅行を我慢して、9月の大型連休に旅行するという客が多かったが、 天候不順でキャンセルや延期を余儀なくされているほか、災害も多く発生したため、客 の購買マインドが低下している。10～11月にも連休はあるが、予約は伸びていないた め、現状と変わらない。
	やや悪くなっている	百貨店（管理担当）	・天候不順により、婦人服を中心に秋冬商材の動きが鈍い。その一方、化粧品について はインバウンドを中心に底堅く動いている。
		スーパー（店員）	・関東地方の雨の影響で、葉物野菜の価格が大きく上昇したほか、入荷がない商品もある など、大きな影響が出ている。
		スーパー（企画担当）	・台風の影響で雨が続いたほか、気温の低下もあって季節の変化が早まり、前年は売れ ていた夏物商材の販売が減少した一方、秋冬商材の需要が高まって品薄状態となってい る。鍋物やスープ、煮込み、おでん関連商品への対応が急務となり、今後は秋冬商材の 更なる訴求と夏物商材の売切りが求められる。
		スーパー（経理担当）	・例年と比べて雨の日や降水量が多く、売上減少分は翌日以降も取り戻せず、その影響 が残る。消費者の間では、当日購入しない場合は家庭内の在庫で対応し、節約する動き も多くみられる。
		家電量販店（人事担当）	・秋の長雨による影響か、来客数が前年よりも少ない。さらに、残暑は厳しいものの、 夏物商材の処分も進んでいない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・ガソリンの出荷量は前年比で約7%減と、長雨や価格上昇の影響が出ている。10月か ら値上げとなる消費財も多いため、消費マインドはやや悪化している。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・令和8年8月千葉豪雨の影響で、首都圏エリアの仕事が正常に機能していない。大阪 や福岡から人員を割いて応援に行く事態となっており、各地で人手不足になっている。
	悪くなっている	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・天候不順による来客数の減少で売上は前年比94%となった。ギフト需要が余り強くない 9月は、秋の新商材の売上比率が高い時期であるが、雨の影響で新商材を試す動きが みられず、売上は前年を大きく下回った。一方、フレグランスなどの香り関連商品は好 調で、今後のクリスマス商戦に期待が持てる。
		家電量販店（企画担当）	・新たな省エネ基準の導入によるエアコンの特需も落ち着き、ヒット商品もなく長雨続 きとあって、来客数が激減している。
		一般レストラン（経営者）	・9月の大型連休は好調であったが、当店の来客数は天候に左右されやすく、9月全体 では雨の日が多かったため、厳しい状況となった。近隣のスーパーや飲食店でも、特に 夜間は客がほとんどみられない。
企業関連	変わらない	輸送用機械器具製造業（経営者）	・暑さが落ち着きつつある一方、雨が多いため、販売店への来店が極端に減っている。
	なっている やや悪く	食料品製造業（管理担当）	・今月は悪天候の日が続き、店舗の来客数や売上が落ち込んでいる。

「インバウンド」関連のコメント（現状判断）

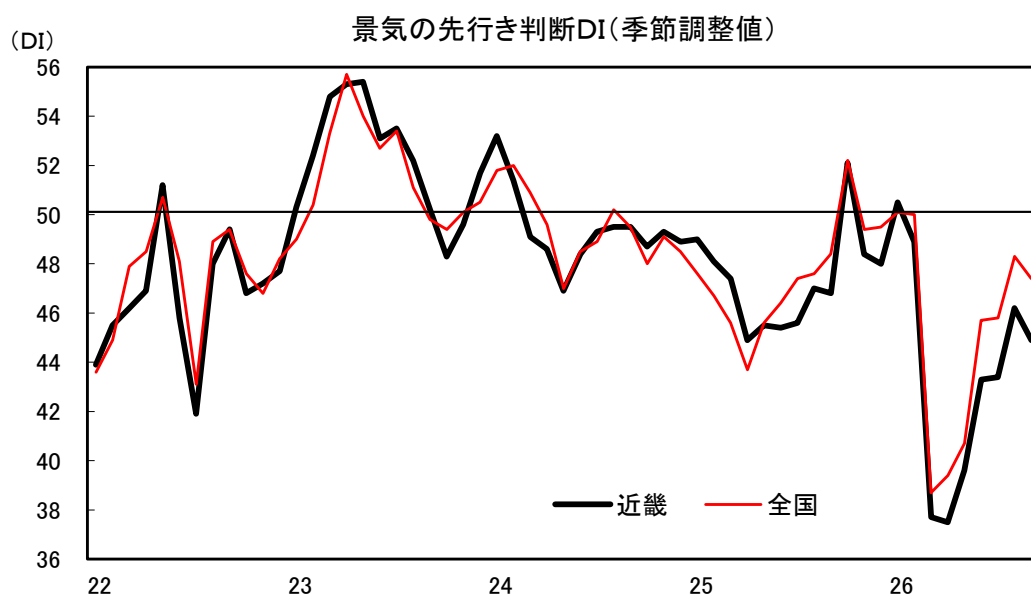
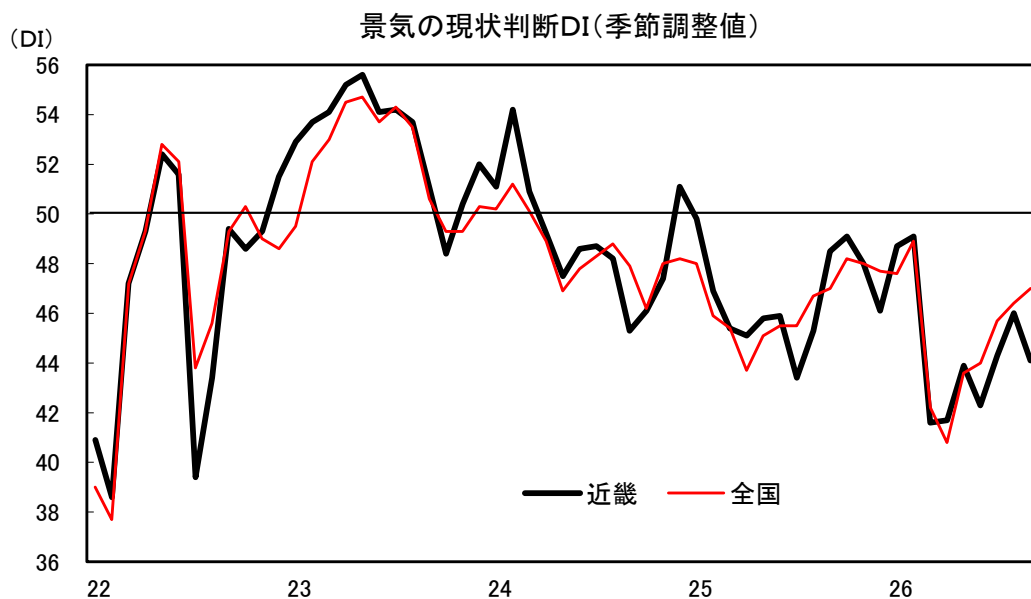
家計動向関連	なっている やや良	百貨店（外商担当）	・8月後半以降、明らかに来客数の増加がみられ、特にインバウンドの増加傾向が顕著 となっている。
		一般レストラン（経営者）	・来客数が増加しており、9月の大型連休中は、欧米や日本各地からの観光客が売上を けん引している。
	変わらない	百貨店（企画担当）	・外商売上、外商を除く国内売上共に、顕著な変化はみられない。インバウンド売上も 6月の水準は若干下回るものの、前年比ではプラスとなる見通しである。ただし、月内 での変化は激しく、9月前半は前年の売上を大きく上回る日が続いたが、後半は国慶節 が近づいて航空運賃の上昇が進むにつれて、中国からのインバウンドの売上が大きく減 少している。
		百貨店（広報担当）	・国内客の売上は好調に推移しており、特に過去数年と比べて9月の気温が低いことか ら、秋のファッション商材の動きが良好である。インバウンドの大半を占める中国人客 は引き続き厳しい状況であるが、国内客の客単価が伸びており、インバウンド売上の減 少分を補って余りある状況となっている。為替も一時、円高に振れた時期はあったが、 基本的には円安基調であり、購買を後押ししている。

家計動向関連	変わらない	百貨店（マネージャー）	・3か月前と比べて大きな変化はない。気温が低下するなか、中間層への秋物商材の販売が好調なほか、富裕層は資産価値が高い宝飾品や時計、美術品を中心に、売上は2けた増を維持している。また、インバウンドは客単価が60%上昇し、売上全体でも40%増と改善傾向を維持している。品目別でも、一般品、消耗品共に好調で、台湾や韓国、東南アジアからのインバウンドによる購入の増加が続いている。
		百貨店（商品担当）	・インバウンド消費はそれなりに堅調であり、国内客も特に土日、祝日の動きが活発であったため、大きな変化はない。
		百貨店（商品担当）	・インバウンドの動きが好調となっている。前年は大阪・関西万博の終盤であり、店頭通常商品の売上増加がみられなかったため、今年はその分だけ好調な数値となっている。一方、9月の大型連休は5連休となったが、行楽需要は盛り上がり、食品の売上も前年並みであった。ただし、ファッション部門は婦人服を中心に好調が続き、今後の天候次第では上振れの可能性も出てきている。
		観光型旅館（経営者）	・当地区ではインバウンドが多くない。
		テーマパーク（職員）	・現状のイベント企画がインバウンドの集客につながり、大きな需要となっている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンドが少ないほか、日本人客や近隣からの客も少ないなど、物価上昇の影響が大きく出ている。
		百貨店（売場マネージャー）	・前年の水準は上回っているものの、インバウンド売上の厳しさが、景気の押し下げ要因となっている。
		百貨店（宣伝担当）	・9月の中秋節から10月の国慶節までは航空券が安いと、例年どおりインバウンドが増えた一方、国内客の減少が顕著であった。9月の大型連休も想定よりも来客数が少ないなど、レジャーやイベントなどのコト消費へのシフトが進んでいる。
		百貨店（外商担当）	・少し円高となった影響もあり、インバウンド売上が前年を下回っている。富裕層の購買意欲は高まっているものの、中間層の売上が低迷している。
		百貨店（管理担当）	・天候不順により、婦人服を中心に秋冬商材の動きが鈍い。その一方、化粧品についてはインバウンドを中心に底堅く動いている。
		都市型ホテル（フロント）	・9月のインバウンドは団体客が好調であったものの、出張やレジャーでの宿泊単価が下がっており、売上に響いている。
		都市型ホテル（客室担当）	・依然として、中国からのインバウンドは、団体客、個人客共に少ない。
企業	な	不動産業（営業担当）	・外国人の就労条件が厳しくなったため、中国人によるタワーマンションなどの投げ売りが始まっており、新築マンションの価格が下がっている。

「金利上昇」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	くやなる良	百貨店（マネージャー）	・8月以外はコンスタントに来客数が増えており、売上も毎月増加している。ただし、金利の引上げによる影響や、中東情勢の先行きも不透明なため、全体的な景気の大規模な改善は見込めず、今後も富裕層の消費がけん引する形となる。
		スーパー（企画担当）	・金利が上がっても、コスト要因による物価上昇は抑えられない。食料品は売上点数が減るものの、単価の上昇で売上全体は変わらないと予想される。
	変わらない	百貨店（売場マネージャー）	・金利の引上げを含む経済政策により、個人消費にも一定の影響が出る。現時点では、景況感が改善する明確な要因は見当たらない。
		乗用車販売店（経営者）	・金利の上昇により、少しずつ消費者心理に悪影響が出始めている。
		競輪場（職員）	・政策金利が上昇しているほか、物価も上がり続けている。これらを背景に、遊興費は減ることが予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・先行きの金利上昇が予想されるなか、借入れは契約時点ではなくしゅん工時点の金利となるため、今後が不安である。しゅん工が1年以上先の物件については、現時点での契約にはリスクを伴うことから、契約をためらう客が増える。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・今後も金利の上昇や円安の動きは続くため、消費は下降気味となる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・今後も住宅ローン金利の上昇や、建築費、住宅価格の高止まりなどで、住宅取得に対する消費者の姿勢は更に慎重となる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・このまま住宅ローン金利の上昇が進めば、購入をためらう動きが顕在化する。それに伴う全体的な販売不調により、価格の低下につながる可能性がある。
	な悪く	衣料品専門店（経営者）	・円安の進行による物価の上昇が、落ち着く気配はみられない。また、金利の上昇で景気にも陰りが出始めている。
企業	変わらない	繊維工業（総務担当）	・金利の上昇は、経費の増加や価格の上昇を助長しかねない。経費の増加分を販売価格に転嫁することが困難ななか、ますます利益の確保が難しい状況が続く。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		24年			25年									26年												
		9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
現状判断	近畿	45.3	46.1	47.4	51.1	49.8	46.9	45.4	45.1	45.8	45.9	43.4	45.3	48.5	49.1	48.0	46.1	48.7	49.1	41.6	41.7	43.9	42.3	44.3	46.0	44.1
	(全国)	47.9	46.2	48.0	48.2	48.0	45.9	45.4	43.7	45.1	45.5	45.5	46.7	47.0	48.2	48.0	47.7	47.6	48.9	42.2	40.8	43.6	44.0	45.7	46.4	47.0
先行き判断	近畿	49.5	48.7	49.3	48.9	49.0	48.1	47.4	44.9	45.5	45.4	45.6	47.0	46.8	52.1	48.4	48.0	50.5	48.9	37.7	37.5	39.6	43.3	43.4	46.2	44.9
	(全国)	49.5	48.0	49.1	48.5	47.6	46.7	45.6	43.7	45.6	46.4	47.4	47.6	48.4	52.2	49.4	49.5	50.1	50.0	38.7	39.4	40.7	45.7	45.8	48.3	47.4

※季節調整値